

職員への信頼を基盤に、 ソフト・ハード両面で働きやすい職場を醸成

社会福祉法人 赤碕福祉会 施設長 入江 祐子 氏

赤碕福祉会は、旧赤碕町を中心に介護老人福祉施設、居宅介護事業所、認知症対応型共同生活事業、訪問介護など8施設10部門を運営している。「報恩感謝」「奉仕精神」を理念とし、誰もが住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、約140人のスタッフが、利用者と家族を支えている。

平成3年7月の法人設立以来健全経営を保ち、待遇や福利厚生など職員の期待に応えられる法人づくりに努めると同時に、地元小中学生との交流などを通して介護職のイメージ改善にも力を注いでいる。

本記事では、円滑な運営に定評のある赤碕福祉会がさらなる組織強化と環境改善につとめ、将来にわたり地域福祉を支えようとスタッフ一丸となって尽力する様子を伝える。



現場をマネジメントする中堅リーダーを重点的に育成 信頼関係が研修の成果を最大限に引き出す。

チームワークとコミュニケーションは、安全に楽しく働くための要だ。その重要性を認識する赤碕福祉会は、かねてより人材育成に力を注いできた。

入江氏: 法人が地域に認められ、ずっと長くご利用いただくためには、組織力の強化が重要と考えています。そのために中堅リーダー、管理職を育成して力をつけようとしています。

昨年はRAJCの中堅リーダー育成講座に4人が参加し、「自分が持つべき心構えがわかった」など成長が窺われた。法人独自でもコーチング研修を行うなど、たゆみない努力を続けている。

また、人事考課も人材育成の一環と捉え、考課者研修も積極的に取り入れて、意義と目的を都度確認し、考課者と職員の関係性を深めている。

入江氏: 現場は、係長、主任クラスの職員がマネジメントしています。リーダーがしっかりしていないと職員が迷ってしまう。ですから、まず中堅を育てたいのです。

そのような教育の成果は、離職率の低さ、穏やかな日常に表れている。どの事業においても、大きなトラブルは起きず、誰もが協力し合う姿が見られる。中堅リーダーがコミュニケーション力をつけて、スタッフ一人ひとりに向き合い寄り

添っている結果だと入江施設長は感じている。

一番は、職員を信じること。 信頼関係が円満な職場へ導く

入江氏: 本や研修に知識をいただきますが、一番は職員を信じることだと思っています。疑いの目は何もいいものを生まず、心の距離ができてしまう。それぞれの中にあるいいものを認め合う姿勢が、職場を穏やかにすると思います。

人を信じるという頑丈な土台の上に、研修などで知識や技術を積み上げる。強固な絆と組織力が、着実に築かれてゆく。